様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 15 日現在

機関番号：１５５０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2009～2011
課題番号：21530499
研究課題名（和文）　日本と台湾におけるボランタリズムと社会資本の多様化に関する比較研究
研究課題名（英文）　A Comparative Study on Voluntarism and the Diversification of the Social Capital in Japan and Taiwan
研究代表者
小谷　典子　（三浦　典子）（OTANI　NORIKO(MIURA　NORIKO)）
山口大学・名誉教授
研究者番号：60117083

研究成果の概要（和文）：近代化とともにボランタリズムが高揚し、ボランティア団体によって家族機能を補うことが期待される。子育て支援に焦点をおき、東アジア社会に特徴的な文化構造を共有する日本と台湾において、ボランティア団体の活動やボランティア意識に関する実証的調査を行った。その結果、台湾においてボランティア意識がより高く、個人の寄付や民間の基金会がボランティア活動を支援しており、東アジア社会に特徴的な親族組織や地域集団を基盤とした共同主義的ボランタリズムが存在することが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：Voluntarism is elevated with the modernization, and it is expected to make up for a family function by the volunteer group. Taking focus on the child care support, the empirical investigation on the volunteer group and the volunteer consciousness was done in Japan and Taiwan. We found out that the volunteer consciousness of Taiwan was higher than Japan, and that the individual donation and a private foundation supported various volunteer activities in Taiwan. It became clear that voluntarism existed concerning the cooperative spirit which based on the kinship and the community in the East Asia.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：　社会学
科研費の分科・細目：社会学・社会学
キーワード：ボランタリズム、国際情報交換、台湾、社会資本、NPO、ボランティア団体、ボランティア意識、子育て支援、

１．研究開始当初の背景

社会の近代化とともにボランタリズムが高揚し、社会関係資本として生活構造の中核をなしてきた親族ネットワーク、地域的ネットワークに代わって、自発的に自由に取り結ぶ知友関係やボランタリーアソシエーションが重要な社会関係資本として活性化してくることが指摘され、アメリカや日本においてはその実態が把握されてきた。

一方で、近代化した台湾社会には、権威主義が残存していることも明らかにされており、東アジア社会の近代化と近代的意識化は、西欧社会におけるものと同じように収斂していくか、あるいは別のものとして固有の特徴を持ち続けるのかという大きな課題を解明することが不可欠であった。

東アジア社会には、西欧社会とは異なるボランタリズムが存在することが想定されるが、その実態については実証的に明らかにされているとはいえず、儒教文化等を共有し、近代化の程度を異にする、日本と台湾における実証的な研究が求められていた。

２．研究の目的

本研究の第１義的な目的は、東アジア文化圏にあり共有する文化的背景をもちながら、近代化や都市化の進展を異にする日本と台湾において、ボランタリズムと社会関係資本の実態を、その文化的背景にまで掘り下げて、実証的に比較分析することにある。

さらに、近代化・都市化に伴って、家族のもつ福祉機能が弱化する中で、高齢者の支援や子育て支援のような社会問題の解決に向けて、日本と台湾において、行政の役割を補完する、民間団体やボランティア団体などの多様な社会関係資本が担っている役割を実証的に明らかにすることを目的としている。

また、ボランティア活動や社会貢献活動の原動力となっているボランタリズムの実態を解明することによって、東アジア社会に特徴的なボランタリズムに基づいた社会関係資本の役割の重要性と課題を明らかにすることが最終的な目的である。

３．研究の方法

日本と台湾において、ボランティア団体の活動やボランティア意識を比較分析するために、台湾と日本の社会事業に関する資料や文献の収集とその分析を行うとともに、(1)子育て支援のための組織、制度に関する聴き取り調査、(2)ボランティア団体に関するアンケート調査、(3)特に、台湾のボランティア団体および企業のボランティア活動に関する聴き取り調査、(4)ボランティア意識の構造に関するアンケート調査の４つの調査研究を計画した。

(1)子育て支援の組織や制度に関する聴き取り調査

子育て支援に関わる制度や、家族に代わって、行政サービスを補完する役割を担っている民間団体やボランティア団体に対して聴き取り調査を実施した。

①日本：保育ママ制度（東京都江戸川区）、ファミリーサポートセンター（山口市、福岡市）

②台湾：台北県政府社会局、台北市児童托育資源中心　台北県三峡鎮立托児所、永和市立托児所民権收場、高雄市伊甸社会福利基金会旗山区児童早期療育発展センター、カトリック幼稚園、高雄県旗山区社会福利会、高雄市新育幼稚園、佛光山大慈育幼院、高雄市昌毅文教集団、高雄市蔵林文教機構、社団法人台北市保母協会

(2) 日本と台湾におけるボランティア団体

に対するアンケート調査

①日本：福岡市と山口県の子供の健全育成活動を含む961の市民活動団体を無作為に抽出し、郵送法による調査を実施し、382 団体から調査票が回収され、回収率は39.8 %であった。

②台湾：台北市と台北県郡部の社会服務及慈善団体を無作為に450団体抽出し、郵送法による調査を実施し、78団体から調査票が回収され、回収率は17.3%であった。

(3)　台湾におけるボランティア団体に対する聴き取り調査

アンケート調査に協力の得られたボランティア団体や社会事業団体及び社会貢献活動を行っている企業、大学生のボランティア団体に対して、ボランティア活動の実態に関する聴き取り調査を実施した。

社団法人台北市松年福祉会玉蘭荘、社団法人台北市学習障礙協会、社団法人台湾児童少年希望協会、財団法人私立愛愛院、 王永慶企業博物館（台塑グループ）及び長庚養生文化村、台北県淡江鎮蔡家村、淡江大学学生ボランティア団体

(4)ボランティア意識に関するアンケート調査

①日本：山口市のファミリーサポートセンター会員921名に対する郵送調査を実施し、196票が回収され、回収率は21.3%であった。

大学生に対する調査を集合調査で実施し、238名から調査票を回収した。

②台湾：大学生に対する調査を集合調査で実施し、380名から調査票を回収した。

４．研究成果

（1）子育て支援システムの比較分析と課題

日本においては、保育施設に入所できない待機児童を家庭で保育する「保育ママ制度」は、先進的に東京都江戸川区で取り組まれてきたが、少数の児童を家庭で保育する制度は、保育所を補完するものとして注目され、近年、国の事業に格上げされて、待機児童対策として重要なものとなってきている。

台湾ではそれに類似した制度は「ベビーシッター制度」と呼ばれており、この制度は、公的保育制度が十分に行き渡っていなかった台湾において、インフォーマルに家庭で児童を保育する仕組みとして広く浸透していた。このインフォーマルに広く浸透していた制度が、近代的に、フォーマルに制度化されることとなり、民間団体の保母協会の役割が重要になってきている。ベビーシッターは協会の会員となり、協会では保母の資格を取得するための研修が行われている。

この制度の制度化のプロセスは異なるが、いずれの国においても、まさにこの制度が制度化されつつあり、保育者と行政、および公的施設や組織との連携が求められている。さらに、その連関を補完する地域における子育て支援のネットワークが今後、重要な課題となることが明らかとなった。

（2）台湾と日本におけるボランティア団体の現状と課題

①ボランティア団体に対するアンケート調査結果

社会の近代化や都市化に伴うボランティア活動の変容を把握するために、 ボランティア団体に対するアンケート調査を、都市度の異なる2地域から抽出して行った。日本においては福岡市と山口県の子供の健全育成活動を含む団体を対象に、台湾においては台北市と台北県（現在、新北市）郡部の社会服務及慈善団体に対して実施した。

いずれの国においても、相対的に都市部において、独自の理念に基づいて自発的にボランティア団体が設立されており、支援を必要としている人々のために活動する団体が多く、活動分野を同じくする諸団体と積極的に交流しながら活動を行っていた。これに対して都市周辺地域（郡部など）では、行政の要請を受けて設立された団体が都市部より多く、経済的にも、行政などから支援を受ける傾向がみられた。

また、国別に比較してみると、台湾のボランティア団体は、行政以外にも、企業や基金会、および個人から寄付金を得て活動しており、その傾向は都市部の団体に強くみられた。

ボランティア団体は、創設者たちは、明確な目的を持って団体を設立しているが、活動が持続していくためには、後継者と活動資金が重要な鍵を握っていることが明らかとなった。そのうち後継者の育成は、日常的な活動の中で行われる必要があるが、活動の支援に関しては、台湾においてボランティア団体を経済的・直接的に支える仕組みがあり、ボランティア活動を支援する社会的機運が強い。活動の経済的・社会的支援は、日本において大きな課題となっていることが指摘できる。

すなわちボランタリズムは、近代化とともに必ずしも促進されるものとはいえず、台湾には、ボランティア団体の活動を支援する基金会が多く設立されているとともに、個人からの寄付を行う機運が極めて高いことが明らかとなり、これらのことから、いわゆる東アジア的な基層文化が、東アジア的なボランタリズムの源になっていることが示唆できる。

②台湾におけるボランティア活動の事例調査結果

ボランティア団体のアンケート調査から得られた比較分析の結果をもとに、台湾におけるボランティア活動の実態をより詳細に分析するために事例調査を行った。

日本統治時代に民間人（施乾）によって創設された貧困者支援施設の財団法人台北市私立愛愛院は、現在、高齢者施設として活動を継続しており、台湾における基層文化から利他的な行為が創出されていたことが示唆できる。また、姓を同じくする親族からなる伝統的地域共同体の台北県淡水鎮蔡家村では、今日的な高齢者のための給食サービスや高齢者大学などの活動が活発に行われており、台湾における地域福祉モデルとして位置づけられている。これらの事例から、伝統的な共同主義がその基底にあることが明らかである。

また、台湾のボランティア団体の多くは、社団法人としての資格をもち、行政のみならず、民間の基金会や個人から経済的支援を多く得ている。社団法人は、比較的簡単に組織することができ、大学生のボランティア団体も含めて、主体的な団体形成の態度が台湾においては強くみられる。

さらに、民間企業のボランティア活動も活発で、台塑グループでは、現地住民の教育的・経済的支援から、病院や学校の設立経営、さらには高齢者が可能な限り文化的な生活を持続できる高齢者施設「長庚養生文化村」の設立に至る、いわゆる社会貢献活動を行ってきている。

これらの、台湾における様々なボランティア活動の実態から、東アジア社会に特徴的にみられる公共領域における共同性が、東アジア社会に固有のボランタリズムの基層構造として潜んでいることが示唆できる。

(3) 東アジア的ボランティア意識の構造

東アジア的なボランタリズムの構造を明らかにするために、日本と台湾においてボランティア意識に関するアンケート調査を、日本と台湾の大学生に対して、さらに日本においては、子育て支援団体ファミリーサポートセンターの会員に対して行った。

その結果、ボランティア活動の経験には国別の違いはみられないが、台湾においては、明確な目的をもってボランティア活動が行われていることが明らかとなった。東アジア的なボランティア意識と関連をもつと想定される地域社会に対する意識を、コミュニティモラールスケールによって測定したところ、台湾ではコミュニティモラールが日本より高く、コミュニティモラールとボランティア意識との相関が強くみられた。

また台湾では、ボランティア意識の構造における自己犠牲規範意識が相対的に強く、ボランティア活動への目的意識が明確であるのに対して、日本においては、ボランティア意識における返済規範意識が相対的に強いことから、台湾におけるボランティア意識は、伝統的地域共同主義と密接に関わっており、日本におけるボランティア意識においては、普遍的近代化の進展を予測させる意識が形成されていることが見出された。

すなわち、ボランティア意識の構造分析の比較から、近代化とともに促進されるボランタリズムと伝統的なボランタリズムがあることが導き出された。

(4) 総括

台湾と日本における、ボランティア団体の活動やボランティア意識の比較分析から、一般的には、近代化とともにボランタリズムは促進され、多様な社会関係資本、たとえば企業や宗教団体のような民間団体や自発的に形成されるボランティア団体が、家族の第一義的な福祉機能や行政の社会福祉機能を補完する役割を担っていることが明らかとなった。

さらに、ボランタリズムは必ずしも、個人主義化に対応した個々人の自発性に依存するもののみとはいえず、血縁的、地縁的、その他のさまざまな縁による社会的共同性に依拠するものもあることが推測される。とりわけ台湾で、より豊富な社会関係資本が機能しており、東アジア社会に特徴的なボランタリズムが存在することを示唆することができた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 10　件）

① 三浦典子「台湾におけるボランティア団体とボランティア活動」『やまぐち地域社会研究』(山口地域社会学会)、査読有、9 号、2012 年、27-40 頁

② 林　寛子「地域における社会的ネットワークとボランティア活動――ファミリーサポートセンター会員調査を手がかりとして」『やまぐち地域社会研究』査読有、9 号、2012 年､135-146 頁

③ 三浦典子「東アジアにおけるボランタリズムと公共性」『社会分析』査読有、39、2012年、61-79頁

④ 三浦典子「台湾におけるボランタリズムの基層構造に関する一考察――愛愛寮（院）を手がかりに」『やまぐち地域社会研究』査読有、8 号、2011 年、1-12 頁

⑤ 林寛子「子育て支援と保育ママ制度――江戸川区の保育ママ制度を手がかりとして」『やまぐち地域社会研究』査読有 8 号、 2011 年、25-38 頁

⑥ 小谷典子（三浦典子）「近代化とボラン

ティア団体による家族支援の可能性」"International Conference on Cross Culture Challenge: People and Culture Regeneration"InternationalConference Hall, CSS, on July 2nd, 2010、「跨文化：民族與文化再生」2010 国際学術検討会会議論文集（国立政治大学社会学系・民族学系）、査読無、2010 年、235-251 頁

⑦ 林寛子「地域社会における子育て支援活動の現状と課題」『やまぐち地域社会研究』査読有、7 号、 2010 年、163-174 頁

⑧ 小谷典子（三浦典子）「流動型社会からネットワーク型社会へ」『やまぐち地域社会研究』査読有、7 号、2010 年、1-18 頁

⑨ 三浦典子「東アジアにおける近代化と都市高齢化」『台湾の都市高齢化と社会意識』（溪水社）査読無、2010 年、3-13 頁

⑩ 三浦典子「高齢社会台湾における宗教団体の活動」『台湾の都市高齢化と社会意識』（溪水社）査読無、2010 年、95-112 頁

〔学会発表〕（計 7　件）

① 三浦典子「台湾と日本のボランティア意識に関する実証的研究」第 122 回日本社会分析学会研究例会、2011 年 12 月 17 日、香川大学　高松市

② 林　寛子「ファミリーサポートセンター会員にみるボランティア活動の規定要因」第 122 回日本社会分析学会研究例会、2011 年 12 月 17 日、香川大学　高松市

③ 三浦典子「台湾における大学生のボランティア活動」第 28 回山口地域社会学会、2011　年 11 月 19 日、山口大学　山口市

④ 三浦典子・林　寛子「台湾のボランティア団体活動にかんする考察」第 121 回日本社会分析学会研究例会、2011 年 7 月 23 日、中村学園大学　福岡市

⑤ 三浦典子・林　寛子「台湾におけるボランタリズムの基層構造に関する予備的考察――愛愛寮（院）を手がかりに」第 120 回日本社会分析学会研究例会、2010 年 12 月 18 日、宮崎大学　宮崎市

⑥ 三浦典子・林寛子「子育て支援団体の現実と地域福祉への期待――山口県・福岡県における団体調査資料をもとに」第 119 回日本社会分析学会研究例会、2010 年 7 月 31 日、九州大学　福岡市

⑦ 小谷典子（三浦典子）「近代化とボランティア団体による家族支援の可能性」国際学術検討会会議、台湾国立政治大学社会学系・民族学、2010 年 7 月 2 日、台湾　台北市

〔図書〕（計 2　件）

① 三浦典子、溪水社『企業の社会貢献と現代アートのまちづくり』2010 年、259 頁

② 三浦典子編著、溪水社『台湾の都市高齢化と社会意識』2010 年、239 頁

６．研究組織

(1)研究代表者

小谷　典子（OTANI NORIKO）
（三浦典子）（MIURA　NORIKO）
山口大学・名誉教授
研究者番号：60117083

(2)研究分担者

林　寛子　（HAYASHI HIROKO）
山口大学・大学教育機構・准教授
研究者番号：20294613